

## 第 44 回 ECE プログラム委員会幹事会

### 議事録

1. 日時：平成 30 年 2 月 19 日（月曜日）15:00-17:00
2. 場所：機械振興会館（6-61 会議室）
3. 出席者：（アンダーラインで示す、なお以下敬称略）須藤亮（CPD 協議会会長&ECE 委員長）、石原直（協議会副会長&ECE プログラム委員会委員）、秋永広幸、渡邊 誠、加藤穂慈、京谷美代子、田辺朗、松村正明、持田侑宏、広崎膨太郎（オプザーバ）、奥津良之（記録）
4. 配付資料
  - 資料 44-1 第 43 回 ECE プログラム幹事会議事録(案) (H29/12/19)
  - 資料 44-2 NIMS 平成 29 年度 ECE プログラム状況報告(カラーバージョン H30/2/19)
  - 資料 44-3 SICE 平成 29 年度 ECE プログラム状況報告(H30/2/19)
  - 資料 44-4 IoT に関する新 ECE プログラム開発状況報告（NEDO 連携 IoT 推進のための横断技術開発プロジェクトの状況）秋永幹事 2018 年 1 月 30 日付メール
  - 資料 44-5 エレクトロニクス系ハードウェア高度技術者養成 ECE プログラム開発状況報告資料（ECE プログラム講師候補リスト ブランク）
5. 委員長挨拶 ECE プログラムのさらなる活性化を期待したい旨挨拶戴き審議に入った。
6. 前回議事録（案）確認
  - 2 頁目 上 7 行目「新委員長」→「委員長」へ訂正
  - 3 頁目 上 10 行目「作ってしまい」の口語体を訂正 →「作り」
  - 3 頁目 最終行 「\*\*エレキハード人材 ECE 推進タスクフォースは仮称であり、TF の Kickoff 会議後 塾長を含めて協議し、すみやかに正式名称を決めるものとする」を追加する。

以上の修正を以って議事録案は承認された。

### 7. 各報告

- (1) SICE 奥津委員より、プロセス新塾 2017 の最近の活動状況につき報告があった。
  - 第 5 回スクーリングを 3 月 2, 3 日新日鐵住金名古屋製鐵所殿構内で実施すべく、準備を進めている。

●来年度プロセス新塾 2018 の企画および準備手配を進めている旨報告があり、SICE 学会誌 3 月号掲載予定の会告 Draft の紹介があった。

なお最近の推進委員会話題として課題が議論され、教育企画のブラッシュアップ・講師/WG コアメンバの負担軽減・成果の社会への発信などについて審議中である旨紹介があった。 また新年度の目玉企画として 全講師(予定)引率による京都地場産業見学・研修会が 10 月に予定されていることにつき、全幹事の賛同を得た。

(2) NIMS ECE 状況報告 資料 44-2 を用いて渡邊委員から、物質・材料基礎 ECE プログラムの H29 年度実施状況について実施状況は順調である旨報告があった。直近では 1 月 19 日「光異性化分子はエレクトロニクス素子に使えるか？」(会場：竹橋 講師若山裕氏) を実施した。講義 7 名、ゼミ 5 名。参加者が減少傾向にある。聴講者をさらに多数集めるべく、広報手法を工夫したい。NIMS イブニングセミナー [evening-seminar@nims.go.jp](mailto:evening-seminar@nims.go.jp) 意見として

○都内(東京駅周辺)で開催されているのは大変にアクセスが良い。SICE や他学会にも声を掛けて、企業エンジニアに気軽に参加するよう紹介したい。(奥津幹事)

○他の研究機関(、TIA:つくば innovation arena, 大阪大PJ, 文科省PJなど)でも nano 教育プログラムがある由、そことの連携工夫が図れるか調査した方が良い。日本方式は縦割りが強すぎる。もっと連携の試行が必要ではないか?→来年度調査する。

○来年度は Society 5.0 関連で講座を企画しつつある。

引き続き ECE プログラム発展的に推進戴く様、委員長から激励の言葉があった。

(3) 産総研 IoT プログラム(開発中)は試行および準備は順調に推移の旨 代行の奥津幹事から報告があった。資料 44-4 を使用した。具体的には、

●今年度の試行は極めて順調・好評に終了した。<https://www.iot-aidevice.org/> を参照されたい。

来年度は 2 回の実習を含んで企画する。4 月に ECE プログラムとして申請する予定。引き続き ECE プログラム発展的に推進戴く様、委員長から激励の言葉があった。

(4) エレキ・イノベーション人材 ECE プログラム Feasibility Study につき 資料 44-5 を参照、奥津幹事が報告した。

●電子情報通信学会(以下 IEICE と略記)との合議について奥津幹事から再度報告があった。

① 1 月 13 日 IEICE 会議室にて 杉山理事(教育担当)、喜多総務部長、蓑毛事務局長と奥津で会議を 90 分間もったが、教育委員会の開催は不定期であり、これまでに開催されていない。

②したがって、当方が期待しているほど速やかに IEICE 主体の開発活動が進まないの、服部先生を中心に講師候補者が集まり、TF として塾骨子製作を進める。

●近い将来的には IEICE 教育委員会に主体を担って進める希望方針に変更ないが、前者の素案(DRAFT いわば核)ができたところで、IEICE 教育委員会に合流願う。この際、IEICE ボードメンバはすでに了解済みなので、再度そのルートも活用し 活動を活発化させたい。

●エレキ人材 ECE 推進 TF は 3 月に立ち上げ、服部武塾長、奥津 TF リーダ、NEC 有志、富士通有志、東芝有志、京谷幹事でスタートさせる。適宜 広崎オブザーバ、石原副委員長のアドバイスを。 (服部塾長には経過につき 別途ご相談します)

講師候補として NEC 村上紅博士 の御経歴が紹介された。

講師候補として 富士通加藤次雄博士の御経歴が紹介された。

今後 富士通殿、東芝殿、技術士会殿 から企業エンジニア講師項候補が推薦されてくる。

(奥津幹事へ 10 日間くらいの間にお願ひします)

なお 技術士会にはカリキュラム内容についてもご意見・検討を戴きたい。

エレキハード現場力を身につけさせたい方針には変わらない。

実習の代わりに 工場現場見学でも十分役に立つと考えている。(広崎オブザーバ)

時代が新しく変わるときには、根本に立ち戻ることが必要である。

異分野連携と人材教育は工学会の 2 大テーマであり、経団連とも連携すべきである。

4 年ごとの世界工学会議 中間の年に工学会主催 E C E シンポジウムを企画できないか。

広報については新聞発表など工夫してゆく (奥津幹事長)

また その後 服部塾長と御相談し、各学会からアカデミア出身講師も補強戴く。

## 8. その他

4 月にナノファブスクエア三宅先生に E C E 幹事会にご出席いただき、

連携につき協議する。(担当 奥津幹事長)

E C E プログラム委員会を 2 0 1 8 年 3 月 1 日に開催する。(案内配信済)

次回 (第 45 回会合) は 2018 年 4 月 16 日 (月) 15:00~17:00 **森戸記念館**  
**第 2 会議室**を申し合わせて閉会とした。その後 6 名の参加で交流会を地下 3 F うすいにて  
催行し、議論の深化をすすめた。

以上